

山陰近畿自動車道早期整備に関する要望について報告書

平成30年11月12日(月)、13日(火)

1・国土交通省道路局への要望活動

1、訪問日時

平成30年11月12日(月) 15:30~16:45

2、訪問先

15:30	国土交通省道路局	東田直正	国道・技術課長
15:45	同 上	阿達雅志	政務官
16:15	同 上	秋山一哉	企画課長
16:30	同 上	池田豊人	道路局長
16:45	同 上	山本 巧	高速道路課長

3、要望活動の内容

山陰近畿自動車道整備促進に向けた京丹後市山陰近畿自動車道建設促進議員連盟を立上げ、会長に金田議員を先頭に18名の議員で構成し、山陰近畿自動車道は日本海沿岸国土軸を形成する重要な道路として、日本海側唯一の高速道路の空白地帯となっている。近年発生している豪雨災害や大型化する台風などの災害において、道路ネットワークの確立、防災力強化、危機管理・防災体制の強化の観点からも山陰近畿道自動車道の更なる推進と緊急輸送道路の整備が急がれるなかで、

- 1・大宮峰山道路の早期完成に向け、事業の推進を図られたい。
- 2・大宮峰山ICから網野ICまでの早期事業化を国に対し働きかけられたい。
- 3・網野ICから豊岡までの区間について、ルート決定に向けた本調査を実施されたい。
- 4・防災機能の向上を図るため、緊急輸送道路の安心・安全な運行環境の確保を図られたい。

とする、要望書を関係機関に手交し要望活動を行ってきた。

4・所見

今回の要望活動は、初めて国土交通省道路局長をはじめとする関係機関に対し、短時間ではあったが京丹後市議会の山陰近畿道建設促進議員連盟として要望活動を行うことができた。

このことは、私たちの切実な声として直接関係機関に訴えることができた

し、各機関の責任者からも「早期実現に向けて支援」していきたいとの回答もいただくことができ、有意義な要望活動となったと考えます。

Ⅱ・山陰近畿自動車道整備推進決起大会

1・日時 平成30年11月13日(火) 9:30~10:30

2・場所 衆議院第一議員会館 (東京都千代田区永田町)
地下1階 大会議室

3・参加者 約250名

- ・ 山陰近畿自動車道整備促進協議会
西脇京都府知事、井戸兵庫県知事、平井鳥取県知事
- ・ 山陰近畿自動車道整備促進国会議員連盟
石破衆議院議員、谷衆議院議員、田中衆議院議員、西田参議院議員、二之湯参議院議員などの関係する国会議員。
- ・ 国土交通省
池田豊人交通局長をはじめ関係職員
- ・ 沿線市長
中貝豊岡市長をはじめ関係市長
- ・ 山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会
京都府議会異議員、池田正義議員をはじめとする各県議員
- ・ 沿線の市町から、各商工会や各観光協会、建設業界などをはじめとした団体
- ・ 京丹後市からは
京丹後市長、京丹後市議会議長、京丹後市議会議員連盟(15名)、協議会関係の、京丹後商工会・京都府北部地域連携部京丹後本部・京丹後建設業協会から、綾部・福知山・舞鶴・宮津市の各建設業協会(14名)、京丹後市建設業協栄会(2名)、京都府漁業協同組合(2名)、協力団体として、東京丹後人会(7名)、東京久美浜人会(2名)商工関係団体など京都府から多数の参加者があり、それ以外に沿線関係市町村からも多数参加されていた。

4・大会概要

- ◇ 大会の司会を谷衆議院議員がされた。

◇ 主催者挨拶で石破衆議院議員からは
日本の人口減少はただ事でない。いかにして地方に雇用をもたらすために、山陰近畿自動車道整備の要望が大切だ。

◇ 来賓として国会議員の紹介がなされた。

◇ 三県の知事から
鳥取豊岡宮津自動車整備推進協議会・但馬・地域高規格道路推進協議会・丹後・地域高規格道路推進協議会の要望書を国会議員に手交された。



● 地元関係者のあいさつ

◇ 西脇京都府知事

四割に満たない整備であり、改めて早期実現を目指していきたい。南北に繋がり北部振興が図られる。その先の事業化・ルート決定されるよう3府県が努力する。

◇ 三崎市長



京都縦貫道路が大宮まで開通し森本工業団地の九割が埋まる成果が出ている。六割が未完成であり早期実現の声を届けたい。災害時の防災道路として生活の道として確保してほしい。一日も早い実現を。

◇ 地元関係者から(株)真田

乾物や切干など伝統的な食べ物を京都から全国に直送している。森本工業団地に本拠地として新鮮なものを加工品いきたい。山陰近畿自動車道の延伸でアクセスも良くなったことが原因だ。早期実現をお願いしたい。

5・所見

京都縦貫道路が全線開通し、京阪神地域への移動の時間が大幅に短縮され、西の鳥取迄間の一部である浜坂道路の開通によっても京丹後市から鳥取に出かける時間も短縮されている。改めて高速道路ネットワークの恩恵を実感できる。

山陰近畿自動車道能力全長約120km、平成30年までに供用された区間は44.0km、現在事業中区間大宮峰山間含めて16.4km、調査着手

区間（峰山・網野含め）40km、未着手区間（網野・久美浜間）19kmの状況である。

平成31年度から峰山ICから仮称網野ICまでの予算を前倒して調査が行われることや、網野から佐津までの道路に向けてアンケート調査が実施され、見通しをつけていくとも言われている中で、しっかりと道筋を示していただきたいと思う。

山陰近畿自動車道120kmが全線開通することは、京阪神から舞鶴若狭道路・北近畿豊岡道路へと繋がり高速道路ネットワークにより、新たな人の流れを作ることができることや、山陰ジオパークなどの観光面、また、災害時における緊急輸送など市民生活の確保に向けた道路としての実感ができる。

平成30年10月21日に地元京丹後市において山陰近畿自動車道の整備促進大会を開催してきた。人口減少へ歯止めをかける希望の道路であるとの思いから、地元の熱意を国への思いで陳情要請活動を行ってきた。

山陰近畿自動車道整備推進決起大会は、地元国会議員や関連国会議員など多くの議員が「早期実現にむけて頑張る。しっかり支援していきたい」と挨拶された。地元市民の熱意をしっかりと受け止めて、早期に全線開通に向け頑張ってもらいたいものである。私たちもしっかりと陳情要望活動に頑張っていきたい。